



2023年01月10日

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名 取締役代表執行役社長兼CEO イン・ルオ
(コード番号: 2160 東証グロース)
問合せ先 ビジネスマネジメント部 部長 中野 暁弘
インベスターリレーションズ担当
(TEL. 03-6214-3600)

(訂正) 「当社連結子会社北京コンチネントを米国ナスダック市場上場会社Catalyst Biosciences, Inc. の連結子会社とすること及び同社を当社の連結子会社とする株式の現物出資等に関するお知らせ」開示の一部訂正について

2022年12月27日に開示いたしました「当社連結子会社北京コンチネントを米国ナスダック市場上場会社Catalyst Biosciences, Inc. の連結子会社とすること及び同社を当社の連結子会社とする株式の現物出資等に関するお知らせ」につきまして、一部訂正すべき事項がありましたので、ここにお詫び申し上げますと共に、下記の通りお知らせいたします。同時に開示いたしました英語版には訂正はございません。なお、訂正箇所には下線を追加しております。また、訂正後の全文を添付いたします。

記

訂正の箇所：

(5 ページ)

1. 「41,089」を「31」に訂正。

訂正前	資本金	41,089(単位：千米ドル)
-----	-----	-----------------

訂正後	資本金	<u>31</u> (単位：千米ドル)
-----	-----	---------------------

以上

各位

会社名 株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名 取締役代表執行役社長兼CEO イン・ルオ
(コード番号: 2160 東証グロース)
問合せ先 ビジネスマネジメント部 部長 中野 暁弘
インベスターリレーションズ担当
(TEL. 03-6214-3600)

当社連結子会社北京コンチネントを米国ナスダック市場上場会社Catalyst Biosciences, Inc.の連結子会社とすること及び同社を当社の連結子会社とする株式の現物出資等に関するお知らせ

株式会社ジーエヌアイグループ（以下、当社と言います）は、2022年12月27日付けの当社取締役会において、当社連結子会社の北京コンチネント薬業有限公司（以下、北京コンチネントと言います）を、米国ナスダック市場に上場するCatalyst Biosciences, Inc.（ナスダック市場コード：CBIO、以下CBIOと言います）の子会社とする一方、当社（間接保有を含む）がCBIOの筆頭株主となることを目的とし、当社ならびに当社子会社（以下、当社グループと言います）が保有するF351の中華人民共和国（以下、中国と言います）以外の権利をCBIOに35,000千米ドル（約4,620,000千円相当、1米ドル＝132円で計算、以下、他に指定がない場合は同様）の経済価値にて譲渡し、その対価としてCBIOが新たに発行する、発行済株式80.46%に相当する普通株と議決権を持たない優先株を当社グループが受領する取引（以下、取引1と言います）を行う契約と、当社グループが保有する北京コンチネント株式をCBIOに現物出資し、その対価としてCBIO株式を当社グループが受領することにより、CBIOが北京コンチネントの発行済株式の過半数を保有すると共に、当社の完全連結子会社であるGNI USA, Inc.（以下、GNI USAと言います）がCBIOの株式を85.18%取得する取引（以下、取引2と言います。取引1と取引2を合わせて本取引と言います）を行う契約を締結することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

本取引は、北京コンチネントの事業自体には何ら影響を与えません。北京コンチネントは、これまでF351の中国における権利を保有しておりましたが、本取引後もそのまま同じ権利を保有し、F351のB型肝炎に起因する肝線維症向けの臨床試験やその他の創薬パイプラインの臨床試験を、そのまま中国にて引き続き行います。また、アイスーリュイの製造・販売も引き続きこれまで通り中国にて行います。当社は（CBIOを通じた間接保有を含み）北京コンチネントの筆頭株主として、同社の支配権を保持し続けます。従って、2023年連結会計年度以降も、北京コンチネントは当社の連結子会社となります。本取引により、北京コンチネントは、今後CBIOを通じてナスダック市場において資金調達が可能となり、米国市場向けの研究・開発を加速するとともに、今後の米国市場における事業を展開する足場を築く第一歩を踏み出すことができます。

なお、当社は、本取引のための資金調達は予定しておりません。また、本取引による当社株式の希薄化もございません。

本取引に関して、CBIOのCEOであるNassim Usman博士は、「北京コンチネントは、F351におけるB型肝炎に起因する線維症向け第Ⅲ相臨床試験や、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）向けに開始しようとしている第Ⅱ相臨床試験に見られるような、複数の強固な線維症向け創薬パイプラインを持ちます。本取引が私たちの株主の皆様にも魅力的な企業を作ることになると信じています」と述べています。当社のCEOであるイン・ルオ博士は、「これまで北京コンチネントは中国で自身の利益から創薬事業に投資することができていました。私たちは、中国でのF351のB型肝炎に起因する線維症向け第Ⅱ相臨床試験における良好な結果に非常に力づけられており、米国でのNASH（非アルコール性脂肪肝炎）向け臨床開発を拡大していくことが非常に重要であり、本取引によって、当社グループがF351の臨床開発を加速していくことができると考えております」と述べております。

1) 本取引の目的

当社グループは、これまで日・米・中の3か国にまたがる事業体制を推進してまいりました。特に、その柱の一つである医薬品事業においては、中国における効率の良い研究開発、製造販売体制を築き上げ、そこでの成果を世界の他地域に展開する戦略を推進してまいりましたが、本取引により、当社グループは、米国

での臨床開発を、CBIOを通じて加速することが出来ます。

2) 本取引を選択した経緯

従前の北京コンチネントの香港証券取引所へ上場する計画は、2021年後半から2022年を通して、バイオテクノロジー企業に対する資本市場全体のセンチメントが悪化する中で遅れておりました。本取引に関しては、以下の理由から、当社グループ全体および当社株主の皆様の利益にも最もかなうものであると判断いたしました。

- ✓ 北京コンチネントへの持ち分を保持しながら、その価値を顕在化させることができる
 - 香港取引所に上場した場合よりも高い持ち分を当社グループで保持することが可能
- ✓ 資本効率が良い
 - 医薬品業界で長い経験のある両社経営陣がアームズレングスで合意した、非現金取引である
- ✓ 上場維持
 - CBIOは、バイオテクノロジーおよび医薬品企業向け流動性と価格発見機能に優れたナスダック市場への上場を維持し、将来の研究開発のための資金調達に資する

3) 本取引の概要

a) 取引1 (F351の中国以外の権利譲渡)

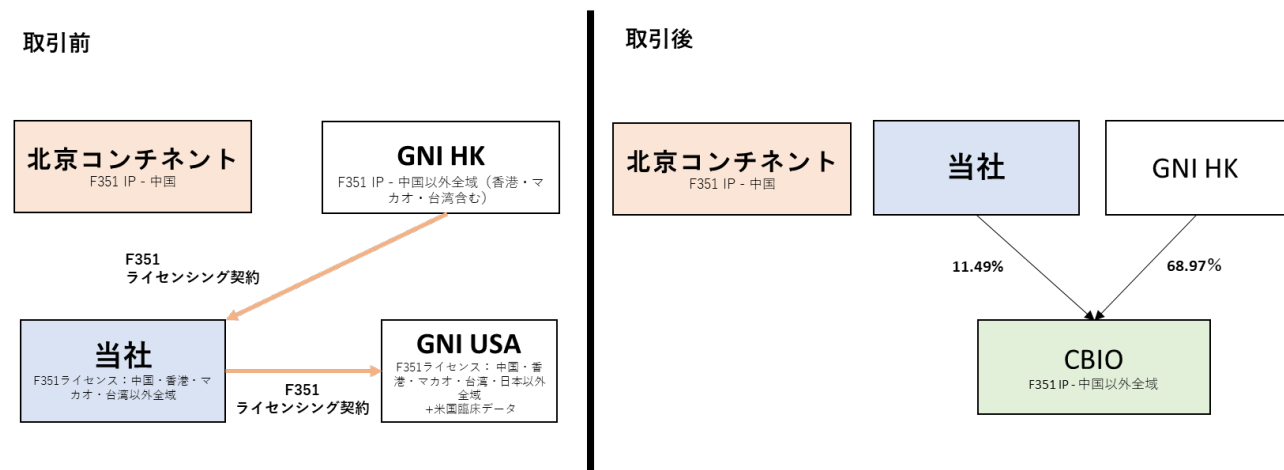
取引1では、F351の中国以外の国の権利をCBIOに譲渡し、その経済価値35,000千米ドル（約4,620,000千円相当）の対価として、CBIO普通株と議決権のない優先株を受領します。

現時点（本取引前）の状況

本取引前には、F351に関する権利は、中国に関しては北京コンチネント、それ以外の国に関しては、当社連結子会社であるGNI Hong Kong Limited（以下、GNI HKと言います）が保有しておりました。中国以外の国の内、香港、マカオ、台湾以外の全ての国に関する権利は当社にライセンス供与されており、更に、当社から連結子会社であるGNI USAに日本以外の国の権利がライセンス供与されておりました。

取引1では、GNI HKからの当社、当社からGNI USAに対するF351の権利（中国以外）の2つのライセンス契約が解除されます。かかる解除の後、GNI HKは、F351の権利（中国以外）をCBIOに30,000千米ドル（約3,960,000千円相当）の経済価値にて売却、同時に、当社から日本国内のF351の権利を5,000千米ドル（約660,000千円相当）の経済価値にてCBIOに売却、その対価としてCBIOの普通株および議決権のない優先株がGNI HK及び当社に割り当てられます。F351の日本での権利も含めてのCBIOへの譲渡は、中国以外の全世界の国々への展開を想定して米国で臨床および事業開発を行った方がより効率が良く、かつ早期の事業拡大を望めると判断したからです。

この結果、当社はCBIOの株式の11.49%を取得し、GNI HKは、CBIOの株式の68.97%を取得します。

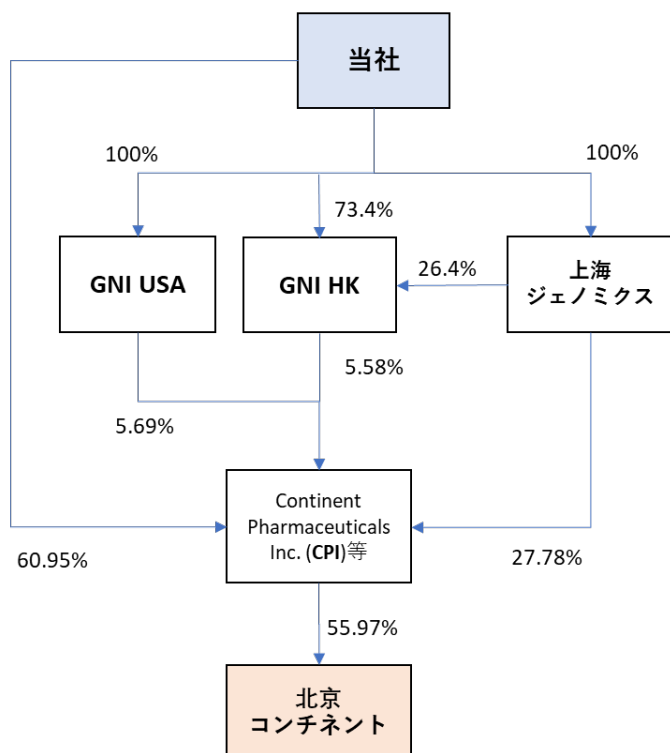


b) 取引2（北京コンチネント株式のCBI0への現物出資）

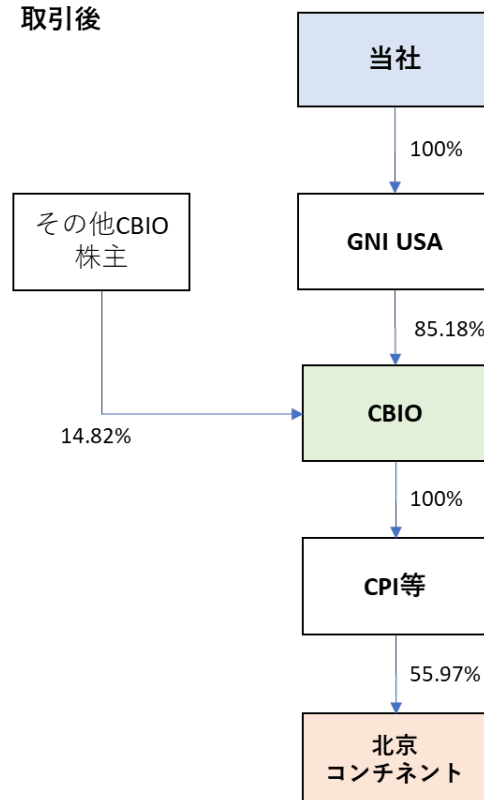
取引2においては、当社グループにて保有するContinent Pharmaceuticals Inc.（以下、CPI*といいます）ならびにCBI0の株式を現物出資によりGNI USAに直接及び間接的に集約した後、北京コンチネント株式を持つCPIの株式とCBI0の株式を交換し、北京コンチネントをCBI0の子会社とすると同時に、当社グループのGNI USAがCBI0の筆頭株主になります。更に、CBI0が北京コンチネントの中国国外の少数株主の持ち分を買い取り、最終的に、GNI USAは北京コンチネント株式257,462千米ドル（約33,984,984千円相当）を対価としてCBI0の株式の85.18%を取得します。ただし、取引2では、CBI0株主総会での承認が必要です。また、北京コンチネントの発行済み株式のうち、35%は中国国内の株主が保有しておりますが、当社グループは、それらの株式を、今後2年の間に買い取る予定です。

*：CPIは、当社が100%保有するパススルー・エンティティです。（詳しくは、2019年1月21日の開示「（開示事項の経過）北京コンチネントに関する当社組織再編成のお知らせ」をご覧ください。）

取引前



取引後



4) 連結子会社とするCBI0について

CBI0は、プロテアーゼ#工学の専門知識を持つバイオ医薬品企業です。CBI0は2022年3月に研究開発活動を停止いたしました。それ以前は、補体または凝固系の障害におけるアンメット・メディカル・ニーズ（満たされていない医療ニーズ）に対処する可能性のあるいくつかのプロテアーゼ資産を保有していました。CBI0は、既に所有するプロテアーゼ資産を売却し、負債の支払いまたは留保を行った後、利用可能な現金を株主に分配しており、現時点では事業活動は行っておらず、清算会社に近い状態になっております。

#：プロテアーゼとは、蛋白質を分解する酵素の総称です。

5) 企業の経済価値評価について

取引1のF351譲渡の対価に関しましては、香港証券取引所への上場申請時に主幹事証券によって試算された価値をベースにしており、CBI0とも合意しております。

北京コンチネントの企業価値に関しましては、香港証券取引所への上場申請時に主幹事証券によって試算された企業価値をベースにしております。

本取引前（2022年12月23日取引終了時点）、ナスダック市場におけるCBI0の時価総額は、約15,840千米ド

ル(約2,090,880千円)でしたが、これは、上記の通りCBIOが清算会社に近い状態で、何らの将来価値も見込まれていない額でした。本取引後、CBIOは抜本的に異なる会社となります。当社グループから譲渡する知的所有権と北京コンチネントが中国で培ったノウハウにより、CBIOは再び資金を調達し、将来の成長を目指して市場に再登場することができます。CBIOの経済価値に関しては第三者の評価書を取得しておりませんが、その成長とシナジーを見込み、当社グループ経営陣は、CBIO経営陣との間でアームズレングスにて本取引に合意いたしました。

6) 今後の当社グループにおける北京コンチネントの位置づけについて

本取引において、中国本土における北京コンチネントへの影響はありません。北京コンチネントはこれまで通り中国における医薬品の研究開発、製造、販売を続けてまいります。当社は間接保有を含め、本取引後も北京コンチネントの過半数の株式を保有しますので、北京コンチネントは当社グループの中核企業であり続けます。

本取引完了後は、北京コンチネントの現時点の創薬パイプラインに関して、米国における研究開発活動は、全てCBIOによって実行されます。

7) 本取引のスケジュールについて

(1) 当社取締役会議決議	2022年12月27日
(2) 本取引に係る契約締結日	2022年12月27日
(3) 取引1の効力発生日	2022年12月27日
(4) 取引2の効力発生日 (CBIO社の定時株主総会)	2023年第2四半期(予定)
(5) 子会社異動日	2023年第2四半期(予定)

8) 子会社(北京コンチネント)の概要

(1) 名称	北京コンチネント薬業有限公司 (Beijing Continent Pharmaceuticals Co., Ltd)		
(2) 本店の所在地	Room 320507-320509, Building 5, Wangjing SOHO Tower, Yard 1, Futong East Street, Chaoyang District, Beijing, PRC		
(3) 代表者の役職及び氏名	Ying Luo, Ph.D.		
(4) 事業の内容	医薬品の開発・製造・開発		
(5) 資本金	61,317(単位:千人民元)		
(6) 設立年月日	2002年7月		
(7) 主たる出資者及びその出資比率	BJContinent (55.97%)		
(8) 当社と当該会社との関係	資本関係	2022年12月連結会計期において、当社連結子会社であります。	
	取引関係	該当事項はありません。	
	人的関係	当社代表執行役イン・ルオが取締役(董事長)を兼務しております。	
(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財務状況 (単位:千人民元/(千日本円)、1株当たりの項目を除く)			
決算期	2019年12月期	2020年12月期	2021年9月 ^[1]
純資産	166,630千人民元 (約2,611,092千円相当)	317,246千人民元 (約5,037,866千円相当)	441,444千人民元 (約7,636,981千円相当)
総資産	263,872千人民元 (約4,134,874千円相当)	427,137千人民元 (約6,782,936千円相当)	509,861千人民元 (約8,820,595千円相当)
1株当たり純資産	4.76人民元 (約75円相当)	7.25人民元 (約115円相当)	7.20人民元 (約125円相当)
売上高	325,083千人民元 (約5,152,305千円相当)	447,002千人民元 (約6,902,381千円相当)	440,422千人民元 (約7,381,473千円相当)
営業利益	89,074千人民元 (約1,411,823千円相当)	155,234千人民元 (約2,396,813千円相当)	157,806千人民元 (約2,644,829千円相当)
当期純利益	70,120千人民元 (約1,111,346千円相当)	127,927千人民元 (約1,975,385千円相当)	125,552千人民元 (約2,104,252千円相当)

1株当たり 当期純利益	2.00 人民元 (約 32 円相当)	2.92 人民元 (約 45 円相当)	2.05 人民元 (約 34 円相当)
1株当たり 配当金	—	0.30 人民元 (約 4 円相当)	—

[1]北京コンチネントは2021年会計年度の数値は9月分までしか公表しておりませんので、2021年1月から9月末までの数値となっております。2021年会計年度第4四半期においては、上記数値に大きな変動はありませんでした。

為替レート	2019年12月期	2020年12月期	2021年9月
資産項目	1人民元=15.67円	1人民元=15.88円	1人民元=17.30円
売上高・利益項目	1人民元=15.85円	1人民元=15.44円	1人民元=16.76円

注) 上記で円換算するために使用した為替レートは、それぞれ当社決算数値算出時に使用したレートです。

9) 権利譲渡先および異動する子会社 (CBIO) の概要

(1) 名称	Catalyst Biosciences, Inc		
(2) 本店の所在地	611 Gateway Boulevard, Suite 120 South San Francisco, California, United States		
(3) 代表者の役職及び氏名	Nassim Usman, Ph.D.		
(4) 事業の内容	新薬の開発		
(5) 資本金	31(単位: 千米ドル)		
(6) 設立年月日	1997年3月		
(7) 主たる出資者及びその出資比率	Nantahala Capital Management LLC (8.12%)		
(8) 当社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません。	
	取引関係	該当事項はありません。	
	人的関係	該当事項はありません。	
(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財務状況 (単位: 千米ドル/(千日本円)、1株当たりの項目を除く)			
決算期	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期
純資産	68,336 千米ドル (約 7,486,892 千円相当)	76,069 千米ドル (約 7,873,142 千円相当)	41,089 千米ドル (約 4,726,057 千円相当)
総資産	98,554 千米ドル (約 10,797,576 千円相当)	94,846 千米ドル (約 9,816,561 千円相当)	55,662 千米ドル (約 6,402,243 千円相当)
1株当たり 純資産	2.17 米ドル (約 238 円相当)	2.42 米ドル (約 250 円相当)	1.30 米ドル (約 150 円相当)
売上高	— (-)	20,948 千米ドル (約 2,234,620 千円相当)	7,338 千米ドル (約 806,040 千円相当)
営業利益	△57,277 千米ドル (約△6,267,249 千円相当)	△57,370 千米ドル (約△6,119,922 千円相当)	△87,894 千米ドル (約△9,654,681 千円相当)
当期純利益	△55,178 千米ドル (約△6,037,577 千円相当)	△56,241 千米ドル (約△5,999,486 千円相当)	△87,933 千米ドル (約△9,658,965 千円相当)
1株当たり 当期純利益	△1.75 米ドル (約△192 円相当)	△1.79 米ドル (約△191 円相当)	△2.79 米ドル (約△307 円相当)
1株当たり 配当金 ^[2]	—	—	—

[2]CBIOは2022年9月に1株当たり1.43米ドルの特別現金配当を支払っておりますが、2021年会計年度までは、配当の支払いはありませんでした。

為替レート	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期
資産項目	1米ドル=109.56円	1米ドル=103.50円	1米ドル=115.02円
売上高・利益項目・配当金	1米ドル=109.42円	1米ドル=106.67円	1米ドル=109.84円

注) 上記で円換算するために使用した為替レートは、それぞれ当社決算数値算出時に使用したレートです。

10) 本取引の前後における当社によるCBIO株式保有の状況

a) 取引 1

(1) 異動前の所有株式数	0株
(2) 取得株式数	普通株式6,266,521株、優先株式12,340株（議決権なし） （議決権の数：6,266,521株） （議決権取得割合：16.60%）
(3) 取得価額	35,000千円ドル（約4,620,000千円相当）の当社ならびに当社子会社所有の知的財産を対価とする。取得に関わるアドバイザー費用に関しましては、精査中です。
(4) 異動後の所有株式数	普通株式6,266,521株、優先株式12,340株（議決権なし） （議決権の数：6,266,521株） （議決権取得割合：16.60%）

b) 取引 2

(1) 異動前の所有株式数	普通株式6,266,521株、優先株式12,340株（議決権なし）
(2) 取得株式数	新規取得普通株式953,821,796株、優先株式から普通株式への変更 123,398,404株 （議決権の数：1,077,220,199株） （議決権取得割合：84.69%）
(3) 取得価額	257,462千円ドル（約33,984,984千円相当）の当社子会社の株式を対価とする。取得に関わるアドバイザー費用に関しましては、精査中です。
(4) 異動後の所有株式数	普通株式1,083,486,720株 （議決権の数：1,083,486,720株） （議決権取得割合：85.18%）

注) 上記の取引 2 の異動後の所有株式数は、CBIO株主総会にて、本取引 2 が承認されること、および取引 1 で当社が取得した優先株の普通株への変換が承認されることが前提となります。

11) 本取引が当社の業績に与える影響

取引 1 におけるF351の権利譲渡の対価である35,000千円ドル（約4,620,000千円相当）の会計処理に関しましては、監査法人と協議中です。また、本取引に関連するのれんは発生しない見込みです。

当社は、CBIO株主総会にて取引 2 の承認を得られた場合は、2023年12月期連結会計年度以降CBIOを当社の子会社として連結することになります。その影響に関しましては現在精査中です。

本件に関するお問い合わせについて

特に本件につきましては、皆様に適切なお説明をするべく、当面の間、本件についてのお問い合わせを集約した後、適宜当社ホームページの「お知らせ」コーナーにおいて、いただいた質問とその回答を開示させていただきます。その間は、お電話あるいは、個別メールでの本件への回答は差し控えさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

当社ホームページお知らせコーナーリンク：[お知らせ](#) | [株式会社ジーエヌアイグループ](#)
(gnipharma.com)

以上

株式会社ジーエヌアイグループについて

株式会社ジーエヌアイグループは、東京証券取引所グロース市場に上場し、創薬、医薬品および生体材料の開発、臨床試験、製造、販売を米国および中国において行うグローバルヘルスケア企業です。詳細は以下の当社ホ

ホームページをご覧ください。
<https://www.gnipharma.com/>

Catalyst Biosciences, Inc. (CBI0) について

CBI0は、プロテアーゼ工学の専門知識を持つバイオ医薬品企業です。CBI0は2022年3月に研究開発活動を停止いたしました。それ以前は、補体または凝固系の障害におけるアンメット・メディカル・ニーズ（満たされていない医療ニーズ）に対処する可能性のあるいくつかのプロテアーゼ資産を保有していました。CBI0は、負債の支払いまたは留保を行った後、利用可能な現金を株主に分配することに重点を置いております。詳細は以下のCatalyst Biosciencesのホームページをご覧ください。

<https://www.catalystbiosciences.com/>

本資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。